

森の京都 ガーデンツーリズム ～森と里山の庭めぐり～

森の京都ガーデンツーリズム協議会 事務局
(一社) 森の京都地域振興社
主任 浅田瑞木



①京都府立保津峡自然公園



②楽々荘庭園



③穴太寺庭園



④ひがん花の里



⑤千手寺



⑦質美八幡宮



⑧美山かやぶきの里



⑥龍穩寺



⑨シャガ・ミツマタ群生地



⑩元伊勢内宮皇大神社

森の京都ガーデンツーリズム
ウェブサイト
<https://morinokyoto.jp/gardentourism/>



森の京都ガーデンツーリズムを構成する 森と里山の庭園

美しい深緑に囲まれた神社仏閣の境内を「森の庭園」、日本の原風景たる美しい里山を「里山の庭園」とする新たなコンセプトで10庭園を選出しています。

*緑色の番号は「森の庭園」、黄色の番号は「里山の庭園」を指します。

- 1 京都府立保津峡自然公園 京都屈指の自然豊かな美しい渓谷。歴史の深い保津川下りと嵯峨野トロコ列車によって四季折々の景観を気軽に堪能できる。
- 2 楽々荘庭園 七代目小川治兵衛が保津峡の美しい景観を表現した、池泉回遊式すり鉢状庭園。建物からすり鉢のように低く造られた庭園は、見る人に大きな広がりを感じさせ、保津峡の雄大な自然美を余すことなく伝える。
- 3 穴太寺庭園 西国三十三所観音霊場の21番札所である穴太寺の多宝塔を借景とする池泉鑑賞式庭園。江戸中期から末期にかけての手法がよく表現された丹波名庭のひとつ。
- 4 ひがん花の里 丹波の山々を借景として、畦に沿って真っ赤に咲き誇る彼岸花と収穫後に束ねられた稲藁との対比が美しく映える彼岸花の名所。
- 5 千手寺 凛とした深い森に鎮座する寺院。山頂からの眺望は、四季折々の森と里山の美しさを感じることができる。歴史ある山門を通して見る美しい景観も見どころ。
- 6 龍穩寺 木々に囲まれた静寂な寺院。晩秋には山門から境内までの石段が紅葉の落葉で覆われ、美しい自然の赤絨毯となる。

- 7 質美八幡宮 樹齢数百年の老杉の並木が続く神秘的な神社。悠久の時を感じさせる木立に囲まれ、過去にタイムスリップしたかのような感覚を味わえる。
- 8 美山かやぶきの里 のどかな田園に昔ながらの茅葺き屋根の家屋が多く残る地域。秋には蕎麦の花が見頃を迎え、まるで里山に白く美しい絨毯がかけられたかのように小さな白い花々が一面に広がる。
- 9 シャガ・ミツマタ群生地 春には黄と白の可憐な花が順に杉林一面を埋め尽くし、幻想的な光景に包まれる。木々の合間一面に咲く花々が木漏れ日に美しく彩られるさまが見どころ。
- 10 元伊勢内宮皇大神社 三重県の伊勢神宮より前に祀られたといわれる由緒ある神社。杉の古木が立ち並ぶ深い森の中に厳かに鎮座する。

森の京都とは、森と人が育んできた「もうひとつの京都」

森の京都は、京都市の北西部に位置する6市町（亀岡市・南丹市・京丹波町・福知山市・綾部市・京都市右京区京北）に及ぶ地域です。山河の恵みを受けて、豊かな森とともに発展してきた森の京都は、国際観光都市である古都京都とは趣の異なる「もうひとつの京都」です。山から湧き出す清らかな水と肥えた大地は、古くから京の都の繁栄を支え、長い年月をかけたながら人々の暮らしと地域文化を育んできました。森の京都の深い森の中には、信仰を深めるために古くから神社仏閣が建立され、農村ののどかな生活を彷彿とさせる里山には、美しい日本の原風景と森の恵みを楽しんで生きる人々の姿があります。

森の京都ガーデンツーリズム ～森と里山の庭めぐり～

森の京都には、かつて丹波国が存在していました。江戸時代後期に出版された『諸国名義考』という書籍によると、丹波国の名称の由来として「名義は田庭なるべし」とありますが、これは広く平らな場所の意味とされています。森の京都の玄関口である亀岡市の「霧のテラス」では眼下に水田が広がる、まさに「田の庭園」というべき美しい風景を楽しむことができます。

私たち森の京都ガーデンツーリズム協議会は、この地の由来である「田庭」から着想を得て、深緑に囲まれた神社仏閣の境内こそ美しい「森の庭園」であり、日本の原風景である里山こそ美しい「里

山の庭園」だと考え、「森と里山の庭園」という新しい庭園の捉え方を提案しています。

森と里山の恵みである食と 古から受け継がれてきた文化

さまざまな農産物が生産されている森の京都は、京野菜や丹波栗、丹波松茸をはじめ、猪や鹿などのジビエ肉から鮎といった川魚まで、豊かな食材にあふれ、古くから京の美食を支えてきました。賀茂なすや聖護院かぶなどに代表される京野菜は、森の京都で多く生産され、全国に出荷されています。ガーデンツーリズム構成庭園の周辺にも新鮮で美味しい農産物を購入することができる直売所や特産物を取り扱う飲食店があり、庭園巡りとあわせてグルメも楽しむことができます。

また、森の京都には舟運として江戸時代に開かれ、現代では美しい渓谷を臨む観光の舟下りとなった「保津川下り」や日本の原風景の象徴ともいえる茅葺き屋根が江戸時代から残る「美山かやぶきの里」、鎌倉時代に平家の落人が生活の糧として始めたと言われる「黒谷和紙」など、古から脈々と受け継がれてきた文化が今も残り、これらは京阪神エリアから日帰りで手軽に体験できます。

私たちのガーデンツーリズムは、森の京都を訪れる人々が深緑の森と豊かな里山に秘められた庭園を巡る中で、森と里山の恵みを味わい、古から脈々と受け継がれてきた文化を感じられるよう計画しています。素朴でありながら、本当の豊かさに触れるツーリズムとなっていますので、ぜひ一度足を運んでみてください。